

○久世孝宏委員長

ただいまより建設産業委員会を開会します。本日は議題のとおり半田市観光協会との意見交換会をメインに行いたいと思います。最初に今日の流れですがお手元の次第にありますとおり、最初に観光協会の松見さんと意見交換会を行った後、松見さんはご退席となり、その後委員と当局で意見集約を行ってまいりたいと思います。

改めまして、松見さん、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。今期、建設産業委員会では地域経済の活性化をタイトルとし、調査研究してまいりました。今日は集大成という意味も含めまして、観光協会の事務局長であります松見さんにお越しいただいております。有意義な時間となるよう、委員も質問を準備してきていると思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○松見直美観光協会事務局長

みなさん、こんにちは。今日はこのような時間をいただき、ありがとうございます。観光による地域経済の活性化について、平成23年度にいろいろ調べてみえたことを委員長さんから伺っております。今からの話がどのように参考になるかですが、私の方が勉強させていただきたいと思うのと、観光協会がなにをやっているのかという見える化ができていないことがありますので、まず、平成23年度にどのような事業を行い平成24年度になにをしていこうか考えているものを1枚。23年度事業の中で出ささせていただいた、秋のイベントや桃の節句のイベント等のカラーの資料と、4月1日から力を入れてやっている食べ歩きスイーツの新年度版、一度皆様の交換箱に配布させていただきましたが温故知多新を用意させていただきました。観光による地域経済の活性化は、本当にそうならないといけないなというところですが、観光協会が市役所の中から出て丸6年が過ぎて、この4月から7年目を迎えています。市役所に商工観光課があり、商工会議所さんの中にも観光文化振興委員会がある中で、観光協会がなにをやって、どんな事業をしていくのがこのまちにとって良いのかということはずっと考え続けながらやっています。目標としては、観光事業者もしくは観光関連事業者を増やしていくことだと思っています。私は職員なり事務局長として働かせていただくようになって、3年ちょっとが過ぎるんですが、6年前、ディズニーランド等に行くことが観光と捉えられていた頃に、多くの市民が半田に観光があるのかなと思っている時に、小栗家住宅に観光協会が事務局を置いて見える化を図った時点で、ちょっと市民の皆さんははたしてなにをするのかなと思ってくださる方が少しいただきました。それには理由があって、酔の里と酒の文化館という年間10数万人お客様が来る施設があり、とても大きな財産だったので、観光協会が出させてもらった。市民の皆さんはまだわかってらっしゃらなかった。平成21年度にふるさと雇用という基金事業があり、知多半田駅前案内所を運営させていただけるようになりましたので、観光協会の機能の見える化を図らせていただいた3年間だったと思っています。人口10万人の1つのまちに2つ案内所がいらんんじゃないかとはっきり言われる方もいらっしゃいます。知多半田駅前の観光所は23年度の事業のところでどんなサービスをやっていると書かさせていただいていますが、このサービスをするために情報を集める、集まってくるのが大きな財産となっています。お客様に情報

を伝えるためには、情報が集まらないと伝えられないので。小栗家の案内所では、2つの施設を行きかう人にこの後どうするかという情報を伝える機能ではあるんですが、広い意味での情報集約では、クラシティの案内所をやらせていただくことによって、広域で情報が集まるようになりました。平成22年度に知多半島広域観光圏という認定を受け、半田市さんが幹事をしているということもあって、4市5町の半田への集まりも変わってきているので、非常に情報が集まるようになりました。そういうこともあり、情報事業を行っておりますが、去年7月に大幅にホームページを変えさせていただいたのですが、従来の半田蔵のまち、運河等を出し、今までの観光に意識の薄かった若い世代やファミリー世代に来ていただくような情報事業を、ブログとかツイッターを連動させて実施しています。ホームページのアクセス数は22年度と23年度をみると倍増しています。効果的にはなっていると思います。イベント等やらせていただく、酔の里、酒の文化館は通年的に来ていただけるんですが、より半田を特化してみたいということで、四季の観光まちづくり催事ということで観光協会的な事業名の催事をさせていただきます。桃の節句、5月3、4、5日で端午の節句をメインにさせていただき、七夕や秋の重陽の節句をやらせていただいています。催事事業において、一番大きいのははんだ蔵のまちネットワークというゆるやかな繋がり連携組織を作っていることです。それまでの半田のイベントは、盆踊りに代表されるような盆踊り実行委員会等、イベントごとの実行委員会というものを基本的に業者の方や商工会議所が事務局を持ってやっていた時代が長かったと思うのですが、日常の繋がりがなくて、その時だけイベントをやることは非常に弱く非効率。その主体が商店街だったことが長くて、商店街関係者さんがイベントで疲れてらっしゃることを感じました。その時にはお客さんが来るのですが、自分のお店の購買力には繋がってっていない。商店街の役員さんがふるまいをしたり、抽選会をしていて、その時は賑わうのですが、長く続かないことに疲れていました。観光協会ができ、事務局に入らせていただいたら、商店街さんが引かれていく構図が見え隠れしていたので、そこを見直してはんだ蔵のまちネットワークという繋がり場を作らせていただいたのが3年半くらい前です。はんだ蔵のまちネットワークは基本的にイベントをやるために集まったような形になってはいますが、日常どう繋いでいるかを大切にしているので、毎月1回小栗家住宅に集まりおしゃべりします。そうすると、酔の里は企業目的で半田の今を切ってくださいとありますし、酒の文化館さんは日本酒の酒造メーカーがなぜ文化館を作ったかということをお話していただきます。なかなか私たちが落としきれていないことをきちんと伝えて下さった上で、どのような催事をすれば良いかというところに繋がってきます。今、当然のように赤レンガ建物は桃の節句や端午の節句に連動してやっているのですが、このはんだ蔵のまちネットワークができる前はバラバラでした。赤レンガで人を呼んだらその人たちを運河に流すのか、運河で人を呼んだら流すのか、上手くいった年、大失敗の年、様々ありましたが、そういうことではんだ蔵のまちネットワークの例会で話して考えてネタを探すという形ができてきたことは、観光協会にとっての財産だと思っています。瀬戸の観光協会ではイベント費3千万円とか、南砺市は合併で予算が減らさないということで7千万円くらい予算がある中で、大半がイベント疲れしているところがある中で、半田市の観光協会はイベント費がほとんどないのです。観光協会事務局がイベントをするのではなく、市民団体さん等ががんばっているところの情報を集め、その情報を発信して誘客をするところが使命と思っています。なかなかイベントだけでは日常弱いということと、半田の良さを見ていただけないというところで、イベントコンベンション誘致事業の中で、視察プログラムの開発

を入れています。視察団体さんから電話をいただくようになっているので、できるだけその方たちのニーズに合うように、見てもらう場所、楽しんでもらう場所というように、観光の部分を1つ、まちづくりの部分を1つ、半田の元気なNPOさんを見ていただく部分を1つ、そういうようなコースづくりはできるだけ丁寧にやらせていただいて、できるだけ私の時間が空いている限りはこの2年くらい私がご案内させていただいています。2人、3人の行政マンから10人、15人のいろんな団体さんが来ていただいて、基本的にはお昼ごはんだけでも、かなうなら泊まっていただくように工夫をさせてもらっています。そういうふう色々やらせていただいているのですが、どうしても民間になった観光協会は商工会議所さんとの違いのかという話をお店屋さんや事業者さんからいただくんです。商工会議所さんと連携はしているのですが、観光協会はやっぱり観光で外から人にどう来てもらうのかを主体的に考えている組織ということを知っていただきたいということで、食べ歩きスイーツという事業をやらせていただくようになりました。有料試食です。500円で4枚綴りのチケットを、1枚のチケットで商品1つと交換するというのをやらせていただいているのですが、本当は宮崎県の日南の小城の城下町が食べ歩き町歩きをやっていて、物販のお店も入って、軒並み回れるようになっていました。半田は残念ながら、商店街が繋がっていないので、エリア的に回遊してもらえるにはどういう風にしたらいいかということで、若い職員が考えた結果、半田で一番あるのは洋菓子、和菓子のおやつというところだろうということになり、一年半くらいやってきています。半数は市民の方が購入してくださっています。それでいいと思います。半田の方にも半田の魅力を知っていただかないと、口コミが広がらないので。少しずつ市外からみえる方が買っていただけるように、名鉄のキャンペーンで切符とタイアップする仕掛けを秋にさせていただくこともあります。最大の成果は、お店屋さんが少しずつ変わってきたことです。お店に入っても誰も出てこないということ、よくお客さんに言われます。職人さんが作っている方が売っているお店が半田にはまだ多いんです。売り子さんを置くところまでいっていない、悪いわけではないのですが家内工業的な店舗が多いので。3回くらい「こんにちは」を言ったら、店の奥から出てきてくれて、いざ話をし出したらとてもよく話をしてくれると言われたことがあります。観光で地域経済の活性化をするには、お店屋さんが変わっていただかないと進まないと思っています。豊かだったこのまちは、このまちのお馴染みさんが来て成り立っているお店が非常に多かったもので、外から来るお客さんを受け入れることができないお店がまだまだ多い。一見さんやよそ者をどうぞと受け入れていただける方は、外から来てお店を営んでいる方か、2代目さんたちが外で修業をして帰ってきて後継ぎになったお店はそうなのですが、長年このまちの中だけで商売をやってきた方は、なぜ次来てもらえるかわからない客に対して1つの商品をやりとりしなければいけないのかから話をさせていただいています。これがお店のPRなんだということをご理解していただくかというところを、観光協会的に手間をかけてやらせてもらっています。その上で、2月3月でヒットしているのは苺大福です。地元農家の朝どり苺を使った苺大福を売っているお店をお客さんはよく知っていて、この期間非常によく通ってらっしゃる。お店の人はあまりそこまでお話にならないんです。お客さんは地産地消を求められるのですが、お店の方は地元のものを使うのが当たり前になっていて、ひとこと添えないとお客さんはプラスアルファを買ってくれないということ、身を帯てお互い知る企画が、この食べ歩きスイーツかなと思います。そこで、疲れたお店、頑張るお店、仲間に入れてほしいお店が出てきて増えてきているという状況です。会員さんにお話をすると、売り場がないのに

どうして商品開発をせよと言うんだという声をよくいただきます。自分ところのお店で売ることが見えない限りなかなか作れないということで、23年度はお土産品の売り場作りとお土産品作りを少しでも進められないかと。新美南吉記念館で9月からミュージアムショップということで、南吉関連の商品等を販売させてきています。実は4月いっぱいまで延長してやらせていただいています。プレゼンに出てOKがいただけたので、隣にある喫茶コーナーを4月下旬から運営させていただくことができましたので、喫茶とお土産品屋さんを一体型で4月28日頃にはなんとか開けたいと思っております。会員さんの商品をお預かりして売っていく場所として、喫茶をやらせていただきます。平行して、3回、商工会議所さんとお土産品作りのセミナー勉強会をやらせていただき、お店同士のコラボレーションや新商品の開発を進むようになってきました。一笑さんという民間のお菓子を集めて販売する知多半島物産展を仕掛けてらっしゃる会社さんが、パワードームの中で毎月のように物産展をやっていたり、3月24日にオープンした元気の郷のすくすくヶ丘という新しいファミリー向けの施設に、常設スペースを確保されましたので、半田の商品を随分並んでいますし、観光協会がプロデュースする南吉等のお土産品コーナーもすくすくヶ丘に確保してもらい、売り場作りをやらせてもらっています。まだまだ市民の方には、半田の観光とはなにかというところがあるので、小中高等学校の総合学習の中で、半田を知るとか地域を知るということで学校の先生から相談をいただくようになりました。学校の先生は総合学習をどうやって組み立てたらいいかというところで、観光協会に行くとマップがあるということから来ていただくことが多いです。山車、蔵、南吉、赤レンガとは実際なんでしょうとか、ふるさと検定のテキストを売っているから買いに来たら、観光協会には総合学習に使える資料があることを知ってもらい、授業の組み立てまで相談いただくようになってきています。昨年度も小中学校5校ほど行かさせていただいて、例えば半田商業高校には、3年生の研究授業の月曜コースと木曜コースに職員がある程度行かさせていただき、半田の魅力と半田で物を売るにはという授業を一緒にやらせていただいています。観光案内所を3年前に知多半田駅前につくらせていただき、とってもいいタイミングだったと思うのは、広域観光圏が動き出した時で、広域の視点をいい形でもたせていただくようになってきたと思っています。これが6年間で平成23年度やらさせていただいた事業です。24年度は基本的には23年度でやってきたことを、少し見直ししながら継続していこうと思っています。知多半田駅前の観光案内所は3メートルほど4月から移設しました。市民のフリースペースを有機的に活用されるという市民協働課のご意向もあり移動しましたが、少しスペースがコンパクトになったタイミングもあるんですが、お土産品販売は撤収しました。クラシティ1階に、知多娘で話題のエンドゴールさんのショップがあるんですが、コーナー替えをする話の調整ができたので、そこに観光協会の管理しているお土産品や半田の推奨品のコーナーを作っていただくとか、かなうなら山車まつりの公式認定グッズを売っていただけるとという話をしております。食べ歩きスイーツですが、桃の節句の時よりもエリアを少し広げました。お車でお見えの方もみえるので、半田の新しく人気のお店を入れていかないとということで、若干エリアを拡大し、店舗数を26まで増えました。できるだけお店を紹介するスタイルを基本として、季節によって期間限定商品としてホームページに掲載したり、スマートフォンの活用の話が商工会議所出ているので、2週間限定商品等情報を流させていただく等、切替をしながら、お店をより知っていただき、お店屋さんとお客さんのやりとりをしてほしいと思っています。南吉記念館は、半年間お試しさせていただいたお土産コーナーをステップにして、喫茶店の魅力

で記念館の入り口まで足を運んでいただける人を少しでも増やしていきたいなと思っております。南吉童話の世界を楽しんだり、ミニワークショップができたり、ギャラリー的な要素ができたりというところで、今日から大急ぎで店舗改装をするように動いています。はんだ山車まつりで当然かかわっていくところがありますが、これだけの事業を現在9名のスタッフ等で、知多半田駅前と小栗家住宅と南吉記念館の3箇所をフル回転で動かしていますので、山車まつりは実行委員会さんが決められたとこをいかにインフォメーションをきちんとさせていただいて、山車まつりを体験していない会員さんで興味を持っている方がけっこういるので、情報をしっかり伝えさせていただくところと、出店されるのか、公式認定グッズを作るのかといったサポートをしていきたいです。広域観光圏でプラットフォーム作りの支援事業に手を上げていますが、幹事市の半田市の観光協会としては積極的に観光圏のところもかかわっていき、情報を持ちたいですし、知多半田駅前の観光案内所ができれば広域の観光圏の中にきちんと認知された駅前の観光案内所という形となることを将来目指していきたいです。ふるさと雇用は3年間ということで、職員を雇わせていただいたので、引き続き雇用する職員が随分育ちました。その職員と会員さんたちと連携をとりながらがんばっていきたいと考えております。まだまだ観光とはなにかなという状態のところなので、ご意見いただければと思います。

○久世孝宏委員長

ありがとうございます。それでは、さっそく意見交換といいますか、私たちからも質問をしていきたいと思えます。ざっくばらんにご質問、ご意見をまず議員の方からさせていただきます。時間は11時半までの1時間くらいですが、よろしく願います。どなたかご意見ありませんか。

○山本博信委員

観光資源を見に行ったそのついでに人を見てお土産屋さんの商品を見ないと観光地に行った気がしないんですけれど、半田市をみてみますと、人がいないんです。観光資源が分散していて。人を見る機会が少ない。お土産屋さんが少ないです。この地域でどのようなものが名物なのか。観光資源を一箇所に集約して、そこに人を集めて、そこから拡大していくという考え方はどうかなと思いました。南吉記念館や博物館、酔の里等が連携してやっていかなければいけないと思っていますけれど、例えば休館日をどういう風にもっていくかというようなことがしていない気がします。民間は一生懸命やっただけなのに、バックアップする市役所の体制ができていない。できたら、酔の里や酒の文化館等は休館日をそんなに沢山ないので、それに合わせて、休館日を少なくするような形にしていかないと。ぜひそれを進めていただきたと思います。

○松見直美観光協会事務局長

博物館、図書館、新美南吉記念館は毎週月曜日はお休みで、月2回は連休をとられます。酒の文化館は第3木曜日がお休みで、酔の里は第3日曜日がお休み。ご案内する身からすると厳しい状況があります。半田駅前水曜日のお休みが非常に多い。なんとかしなくちゃいけないのですが、現状の観光客数や人の動きでは、民間の事業者さんはなかなか年中無休はえらいのではないかと感じます。はじめて南吉記念館にNPOで観光をやっているところが入っていかせてもらえると、外から見ると文化観光施設なんですけど、行政的位置づけは教育施設なんです。そこの刷り合わせがまだまだできなくて。美濃市では、文化財的施設は教育委員会が保存活用はしているが、受付は商工観光課の臨時職員なんです。施設を守るところ

とお客さまのおもてなしはそれぞれの担当課から人を出して連絡調整をしてやっています。そうやって知恵を出してやってらっしゃる行政もあります。観光で大半の方がごはんを食べているまちなんです。観光客が来て、和紙を見て、買ってくれていることが、どれだけ大切だと感じている民間事業者がいっぱいいることが行政に届いているので、行政もそういう判断をされている。半田市はまだ発展途中で、産業的に恵まれてきたので、市民の意識がそこまでいっていない。平成26年度で大幅に替えるというミツカンさんの再生計画のタイミングで、どこまで蔵のまちネットワークで情報交換している部分の足並みが揃えられるのだろうかと思っています。中埜半六郎がどうなるとか、赤レンガがどうなるとかの見える化がされない、ミツカンさんがどう判断するのかということ、民間の観光協会としては切実に感じているところです。行政の動きをみながら、民間として企業さんとどうお付き合いさせていただくのかということ、上手くやっていかないといけない。山車まつりと南吉生誕100年はとっても大切ですが、それに埋没せずにやっていくにはどうしたらいいんだろうと感じているところです。それがなくお土産屋さんが増えないと思いますし、投資して出店していらっしゃる方はそこまでできないところなので、そこまでしようかどうか考えている方がいらっしゃるといいなと思います。

○山本博信委員

民間のみなさんが努力してらっしゃるのに、博物館と南吉記念館の休みがそれに合わせるできないということについてどうお考えでしょうか。

○松見直美観光協会事務局長

ぜひ合わせてくださいと要望したいです。開けて人は来るのかということも施設側的には思われるので、なんとか開けていただけるように南吉記念館には足がかりをもっていったところなんです。実は月曜日は人が沢山動いている日なんです。南知多等で宿泊された方がどこかないかとおられるんです。名古屋辺りの主婦の方は、リフレッシュのためにお出かけになってくるんですが、それは、先端の案内所にいるので感じることであって、施設で中を運営している学芸的な方にはそこまで伝えきれていないところがありますので、私たちが入っていくことによってそういうことも共有していくこともできるのかなと思っています。

○近藤恭行市民経済部長

今までの行政の動きとしまして、入職した時にまさに商工観光課で観光協会の担当でありまして、行政として予算も作ってましたし、名簿も作ってました。土曜日日曜日は休みになってました。行政としてやっていたのが、市民盆踊り大会と春のぼんぼりの設置くらいだったと思います。これではいけない、もう少し実際に半田におみえになる方は土日におみえになるのだから、土日の観光を充実させようということで、観光協会を民間にして、土日も対応をとれる体制をとろうとしたのが動きの1つだと思います。公共施設の休みが多いという話ですが、例えば図書館は常時使っていただけるように、なるべく開館時間を増やしていこうという動きがありますし、運動公園は年中無休でやっております、少しずつ動いているのですが、まだ観光面で移行する途中の段階です。実際にオープンをして来ていただけるんだろうかという部分で、踏み込めない状況が今のところであるというところがございます。ずっとその状況ではいいのかと言われれば、十分に検討していないのならば次のステップに向かっているかなければならないなと思います。現在のところだと、例えば月曜日のオープンは踏み込むところまでいっていない。運動公園のオープン時から、本当は年末年始以外をオープンしているのですが、施設のメンテナンスでなかなかできていないところがあるのです

から、そういう部分もあって現状があります。繰り返しになりますが、順にそういう部分まで意識が変わっていくのかなと思っています。

○松見直美観光協会事務局長

市外から来た人から言われるのですが、南吉記念館以外はみんな無料ですねって言われます。例えば月曜日に開けるということは、ある部分を民間に委託していただければできると思います。入館料をどうするのか、企画展をどうするのかというお金の生みだし方から考えていけば、開けられるはあると思います。観光協会はそういう意味で法人をとるという選択肢を選びました。同じような施設で運営しているやり方をしているところはそれなりに見させていだいたり、お話を聞かさせてもらったりしているのですが、まだ具体的な提案をもってまで出ていけるところまでは体力的にないので、やれるところ、お土産を増やす、かかわってくれる事業所を増やす上で、南吉の喫茶店を足がかりにして、南吉記念館と近い関係ができるとそういうことを含めてお金を生み出して、人をどう雇って、おもてなしをする部分と文化学的的に行政がやるところができるんじゃないかという可能性を感じています。それを提案できるだけの体力をつけないと、現状だともうは言えないと思って、少しずつ勉強をさせていただいています。

○鈴木幸彦建設産業副委員長

2つのことをお伺いします。行政に休館日等のご要望があるかと思いますが、観光協会と行政が両輪で進んでいかないといけないと思います。行政に対するご要望や不満がもしあれば教えていただきたいということと、会議所月報の記事を読ませていただきますと、活性化をするためには事業所等関わる方を沢山増やすということをおっしゃっております。今まですそ野が広がってなくて進まなかったのかとも思うのですが、その辺りの解説をお願いいたします。

○松見直美観光協会事務局長

まず、お礼申し上げたいことは、知多半田駅前の観光案内所が3年で終わらなかったことは、議会のみなさんも行政のみなさんにもとても感謝しています。3月20日頃、3月30日をもって終了する事業をお知らせするメールが沢山入ってきました。ふるさと雇用や緊急雇用で観光の事業がかなり動いていたんだと思うのです。モニターツアーを作っている民間の観光会社さんや駅前に観光案内所を作りましたが閉鎖しますという話が山ほどある中で、知多半田駅前観光案内所は継続できる。リーマンショックや震災があつて、予算がどこに流れてもわからない状況の中で、継続できることは感謝しています。委託を受ける観光協会的には3年後をどう迎えるかということを考えることが事務局長の3分の1の仕事だと持っていますので、行政の方にもぜひそこを一緒に考えていただくことが最大の要望です。観光のインフォメーションをどう考えていくか、ホームページ等もありますけれど。広域観光圏の中で半田市が幹事で、半田商工会議所が金庫番で動かれていますので、知多半島広域の中でなにか観光的に必要で、半田市がどのような役割をもっていくのか。現状法人格を持っている民間の観光協会のうちだけなので、今は半田市の観光の中のパートナーだと思っているんですが、知多半島の観光の中で半田市観光協会がどう生きていく道があるかということと一緒に考えていただけたら。他の行政から期待される部分は半田市観光協会をどう使っていただけるかということところです。教育施設として成り立ってできてきた、半田の文化の施設を教育文化観光施設に、民間の観光施設であるミツカンさん等が変化しようとしているときに、この2、3年で歩調を合わせて変化していかないと。高山とか小京都と呼ばれるところは、

街並みを歩いたら観光と思えるところはうらやましいと思うんですが、半田の酢の里から酒の文化館は短いので、赤レンガ、南吉記念館、博物館間の回遊性を持たない限り観光ゾーンは繋がらないと思います。教育（文化）施設が文化観光施設に、今よりは変わる部分を一緒に考えていただけて、観光協会が仕事としてやらせていただき、市民や市民団体等といかにパートナー関係を作るかというところのご理解をいただけるといいなと思います。NPO法人の業界にいと、新しい言葉だけがどんどん動くのですが、こういう法人を使っていたくことが、わかりやすい新しい公共だと思うので、ないものを無理して生み出すのではなく、介護福祉系ではない事業型のNPO法人とどうやってお付き合いをさせていただくのか。行政にお願いをするとすればその辺りのご理解を、今以上に進めていただけるとありがたいと思っています。

○鈴木幸彦建設産業副委員長

すそ野を広げるという部分で、企業はもちろんですが、地域の方が地域を盛り上げることをしてらっしゃるので、その動きを進めていくことに関して歩調が観光協会さんと合っているのでしょうか。

○松見直美観光協会事務局長

地域としてもとても良いことですし、いくつかは半分事務局的なところを担わせていただいているところがあります。観光協会の体力不足もあり、まちの活発な動きについていけないところもあります。なんとか情報を集めようとしているのですが。その中で、観光に近いすそ野の広がりに近い、市民団体さんや青年部さんの観光よりはもう少しまちづくり的な動きの中で、どこを第1次パートナーにさせていただくといいかなというところはまだ模索中です。まずは観光協会会員に観光はなにかということを理解していただく。先ほど部長が言われたのですが、行政の中に観光協会があった時の会員組織さんがある程度そのまま引き継いでいるので、一般的に観光事業者さんじゃない会員さんもけっこういらっしゃるんです。実はすごく関係があつたりしますよね。最近とてもご理解が進んで、建設中の看板に観光キャラクターを付けましょうかというような発想をしてくださったり、建設会社のビルの中に観光ポスターを貼って、お客様との会話のきっかけは半田のまちの魅力から伝えるようにしたいとか、分野的な広がりはあるんですが。そのレベルと施設的な良さを上げていくところは、広くすそ野を広げるところとコアにやるところの強弱が、まだまだ整理がついていないところです。すそ野の広がりには山車まつりと南吉生誕100年でうんと加速すると思っています。

○山本半治委員

他市町では沢山の予算がついていたという話ですが、行政から出ているお金なんですか。

○松見直美観光協会事務局長

例えば瀬戸市さんだと、ミュージアムと観光協会が表裏一体なんです。職員は一体型なので、現在の行政の催事的なところは全部受け止めているので、観光協会予算と行政の観光予算を使っているのが一緒なので、4千万円近い催事費が出ていて、年間7回、2カ月に1回くらい瀬戸物のPRイベントをするのが可能です。一見羨ましいなと思ったのですが、疲れきっていると伺いました。みんな観光協会がやってくれるよねと民間事業者さんは思っている。たぶんマンパワーにかける方が、なかなか事業費を切り替えられなくなっている。南砺市の支部の方もみえて、まさしく瀬戸市さんと同じだそうです。半田市観光協会がNPO法

人で職員を9、10人かかえてやっているのに対し、7千万円の予算に対し、専任職員は事務局長1人だけだから、イベント会社に委託を出すとかしかできないでいるんですと言われると、まちづくりではないですね。

○山本半治委員

物品販売等されている利益はどれくらいありますか。

○松見直美観光協会事務局長

食べ歩きスイーツをさせていただき、売上にはなるのですが、実際ほとんど利益は残りません。お店屋さん還元するところやPRもありますので、持ちだしがなければいいところです。現実、広告等他のイベントとタイアップして掲載していただいています。事業収入としてあるのは、お土産品をオリジナルで開発して売っていく部分と委託販売です。委託販売は2割くらいしか手数料はいただいているので弱くて、自社製品を開発すれば4割は収入になります。この1年半くらい頑張っているところなんです。まずそれには売り場を作らないと収入にはならないので。なんとかミュージアムショップの職員費用が出せるかなというところなんです。

○山本半治委員

高校生も電車に乗る人がいるが、知多半田駅の辺りに高校生がいないように感じる。学生がこの地域へ来るようなことを考えてもらえないか。

○松見直美観光協会事務局長

まさしくそれは行政さんに考えていただけるといいなと思います。観光協会として3年クラシティで仕事をさせていただいていますが、前職が市民活動センターのコーディネーターや喫茶コーナーを運営しているNPO法人だったりするので、クラシティ半田ができた平成18年4月20日からあのフロアにいました。あのビルの商業スペースをどういうふうで作られたのか知りませんが、高校生が入るお店がない。根本的になにかの仕組みを変えない限り、難しいなと思っております。4階と5階の半田市の駐車場を指定管理で請けている賑わいビル開発株式会社は、3千万円の駐車場料金の予算をとっているわけです。ビルを活性化するための3千万円で、テナント料が下がれば、客単価の低い店が入ってこれるんです。根本的な仕組みがなんとかならないと、観光協会はできる努力をするしかなく、賑わいビル開発株式会社にご理解いただいてエンドゴールをなんとか入れる仕組みを作るとかのつなぎ目役をやらせていただいています。今も2階の店舗も開いているわけです。なんとか入居に繋がるよう、つなぎ目役をやらせていただいています。あのビルにいる人間がどうがんばるかということと、プラスアルファどうするかという課題がオープン7年目としてあるでしょう。最初の契約更新が6年なので、この5月以降も入居を続けるかどうかの更新作業をされている段階です。1階の空き店舗は入居者が決まったということですが。今だと2箇所しか食事のお店が案内できないので、お客さんに選べないと言われております。

○近藤恭行市民経済部長

クラシティを作る時に、今後どういうふうに維持をしていくんだといくことで、当時商業系のコンサルは入ってもらって、店舗展開を図ったんですが、現実的に今の状況となっています。建設費をある程度家賃で回収しなければいけないのと、民間のビルなのでリニューアルに向けてきちんと予算を積み立てていくという方式をとっています。通常行政がやりますと、建設をして借入金を返していただくのですが、クラシティに関してはそれ以外に10年後や20年度にどういう補修をするかという部分の金額を積み立てているのが非常に大きいので

す。そうした状況があつて、テナント料が下げられないということがあるんじゃないのかなと思います。行政としても、4階、5階の駐車場部分のバックアップをして負担を軽くすればいいという考え方もありますが、相当事業負担しているのもので難しいですね。活性化としてどういう方法がいいんだということを考えるにあたり、こうすればいいんじゃないかという意見を申し上げられるところまでいっていないというのが現実です。

○久世孝宏建設産業委員長

観光の部分に繋がる部分もあるかと思いますが、せつかくですので観光の方に話を戻していききたいと思います。他にご質問、ご意見ありませんか。

○中川健一委員

なかなか苦勞されて頑張っているのかなと思い、応援したいと思います。希望としては、観光事業ではなくて、観光協会としての観光のあり方に対する政策的な観光情報発信をしていただけるとありがたいなと思います。例えば、中埜半六邸のこと、残すというようなことを観光協会という団体が市に対してではなく、市民に対してこういうものを残さないといけないという理由を含めて言えるようになると、観光協会の存在的なものがわかるのではないかと感じます。結局、現状の半田の観光関係のまちづくりの問題は、建物等設備がないわけです。酒の文化館、酢の里、小栗家しかないので、飛び地になっているのをどのように設備を増やすか。そこに絞られていると思います。そのために、建物を残していくことになるかと思っています。そういう発想をシンクタンク的にやってほしい。補助金をもらっている手前言いにくいのはわかりますが、NPO法人なので、ぜひ踏み込んだ提言をしていただきたい。

○松見直美観光協会事務局長

NPO法人でシンクタンク的にとというのは半田市観光協会の目指す方向だなと思います。正直言って、どこまで話せるかなんですけれども。蔵のまちネットワークのゾーンの中で、どういうイメージをどう作っていくかということをやっと、すり合わせができるところまでできています。今後10年後を目指さなければいけないなと思いますが、NPO法人の観光協会としてそういう部分ができるようになりたいと思います。行政さんが産業観光振興計画を作られていますが、それ単体で作る時が来た時に、作る場所を担えるようなところを目指さなければいけないんだらうなという意識を持っています。

○久世孝宏建設産業委員長

2点質問があります。もともと職人さんが多かったことに対して、おもてなしの心を養うように意識を変えてもらう先に、副委員長から言われた会議所月報に掲載されていたとおり、市民レベルでもすそ野を広げることを目指していかなければいけないということは、なぜそういうふうに感じているのか。それが大事だと思われるに至った背景を聞きたい。また、それをやっていくにあたって、行政ってどういうふうに応援ができるのだろうか、ストレートにお話いただけたらと思います。

○松見直美観光協会事務局長

万博の開催やセントレア開港に伴い、ビジネスホテルがたくさん建ちました。ビジネスホテルさんが急速に観光にシフトを置くようになったのは、経済が冷え込み、観光的な方に泊まっていたかかないとやっていけないということで。ビジネスホテルがそういう方へのおもてなしをされることになりました。朝運河までお散歩に行かれた宿泊客さんが観光案内所に帰ってきてひとこと、「このまちの方たちはあいさつされませんね。みなさん、お店の軒先をきれいに掃き掃除をされていて、観光地へ行くと顔を知らなくてもあいさつをされますが、

このまちの方たちは不思議な顔をしている。要は観光客が来るという認識が駅前の商店街の方たちにはないんですね。」とさりげなく言われました。これがうちのまちの最大の課題だとすごくシンプルに思いました。ホテル業者やエージェンツさんは一生懸命なんです。こういうのが観光だという時代がやってきたので。ディズニーランドよりもこっちを選択される方が増えてきたから、ビジネスホテルでもビジネス客と観光客を入れると稼働率が上がっていると。3割切るスタートしたところが、7割、8割稼働率で動くホテルがでてきています。必死で情報を観光協会に取りに来ていた業者さんがいるんですが、地元の人はいさつをしないと。でも、そんなことはない。自転車で走っていると、まわりのお店屋さんたちはいさつをしてくれるんですよ。このギャップをうめることが観光協会の仕事だなと感じました。大人はなかなか変わらないんです。大人はお金儲けができることがわかると変わるんですが、そうじゃなかったら変わらないんです。観光協会で働かなければ感じなかったことです。それをどうするかと言ったら、子どもからやってくしかない。10年はすぐですから、子どもたちはいさつ運動を通じて、いさつの習慣が続いていけばいいんです。本当はお店屋さんがまちナビゲーターだと思うんです。そこにもっていくには、お金儲けとして観光を考えてくれる事業者さんとのお付き合いを増やすことと、10年後を期待して、子どもたちと付き合い合うことだと思っています。行政さんに期待することは、教育委員会でいさつ運動や商工会議所で教育改革協議会もやっていて、とってもありがたいんですが、それをまちづくりの視線でどうやって行くかというおおもとをやっていただけるとありがたいです。商工会議所さんだけ頑張っていらっしゃるのですが、事業者のところにもどのようにお金儲けや人材育成にかえていくか。いさつを誰にでもする半田で、いさつをしてくれないとお客さんに言われたのはショックでした。

○久世孝宏委員長

要するに、いさつがひとつの例だと思うのですが、やっぱり観光のまちとして、いままでがそうじゃなかったから、いさつしようとなっていない意識がある。

○松見直美観光協会事務局長

お店屋さんだけが悪いんじゃないで、お店屋さんにも観光客が来ていることさえ伝えきれていないことが現状なので、今、会議所月報に毎月1ページもらっていることはありがたいです。けっこう読んだよと声をかけてくださる方が増えてきたので。観光協会なりに伝えられる方法で、課題をどう伝えること、なにをやっているかということ伝えて、どう感じ取っていただいて、市民の方も商売屋さんもご自身たちで納得してどうしていこうという動きがない限り変わるの無理です。そういう方を少しずつ広げていくことが、まさしくすそ野を広げてくるところかなと思っています。なぜそう感じて、なぜどうして動いたかと言われるとそういう出来事があったことがきっかけです。そういうことがないと思っていたことが、頭から思っていたことが違うんだなというところなんです。

○新美保博委員

知多半島のまちは観光で生きているまちではない。観光で生きていかなければならないまちは、必ずみんながあれこれやっているからひとつのまちができてきている。観光がにわかにはクローズアップされて、産業が下火になってきたので、お客をビジネスホテルが呼ぼうとしている。山車まつりに来た人が、泊まって翌日も見たいのに、泊まる場所がないから南知多や三河に行って帰ってこない。空港の要因もあって、ホテルが沢山できたが、なかなか半田は観光事業で成り立つまちではないと思う。知多半島広域観光圏の中で、見るものはこ

ここで見てください。泊まる場所はここで泊まってくださいという。どういうふうに県外の人たちに来てもらうことを作りあげてもらったほうが良いと思う。行政に頼ってきたことが間違いなんです。批判するわけではないですが、事務職である行政に想像力はないわけで、新しいものを作り上げることは無理なんです。半田市観光協会として、こういうものをしたい、こういうシステム全体を動かしたいということを言ってもらって、行政は協力していく立場を作らないと。まだ発展途中だと思いますが、広域観光圏のエリアの中で、半田はなにができるのか。半田が動けば観光圏が動くのだから、ぜひがんばっていただきたい。議会としてやってくださいということがあれば、ぜひ協力をさせていただきたい。

○松見直美半田市観光協会事務局長

まさに知多半島で考えて、その中で半田はどのような役割を持つかということだろうなど、働かせてもらったこの3年で実感しております。南知多さんは観光事業者が多いわけですが、去年の震災以降ものすごく冷え込んだのは南知多さんです。半田はむしろ増えたくらい来ていました。酢の里、酒の文化館は減らなかった。お金がそんなにかからなく手軽に行けるところは来るというところは、半田の観光の象徴だなと実感しました。それに特化すればいいんだろうなと思っています。ビジネスホテル選択型の個人旅行客さんも半田に泊まってほしいですし、視察の方もビジネスホテル選択型も増えているので。従来型がお好きな方たちは南知多や島まで行かれると思うので、海と魚だけではなく、もっと歴史文化見どころがあるということで、行き帰りで半田に寄っていただける。わかりやすいのは、観光圏等でモニターツアーの仕組みを県が動いていましたが、どこがモニターツアーを組んでも半田を入れてくれています。どこかの施設と食事とお土産等を若干ですがなんとか買う仕組みや食べ歩きスイーツをモニターツアーに入れてお見せ回りをするというものがあります。この2年20件くらいのうち8割、9割は半田をコースに入れてくれています。博物館で山車の組み立てを急ぎよ見せていただいたり。半田と常滑は立ち寄り場所として認知されてきているということ。げんきの郷さん等に代表されるような、ちょうど知多半島から出るか出ないかのところで集中的にお土産を買えたり、トイレ休憩ができる場所という位置づけと半田の真ん中と南知多の役割は、知多半島の中で明確にして、その連携をどうしていくかという調整を提案したいですし、半田市は方向性を他市町の調整をしていただけたら非常にありがたいなと思っております。その中で、どれだけ収益性を今後確保できるか。広域で動く中で半田でどう泊まって、物産的に収益がどう上げられるかということと、知多半島の他の観光協会さんができないことを半田市観光協会がやらせていただけたところで、現状、半田市からの委託事業がいただけるようになんとかなくなってきましたが、知多半島域でも委託がいただけるような方向性はこの2年の中で考えないなと思っていますし、中埜酒造さんやミツカンさんという民間企業さんの真ん中にいますので、行政さんとは違う付き合い方で民間企業さんとお付き合いをさせていただくことに飛びついていかないと考えております。知多半島でどう考えるかはとても大切だと考えております。

○久世孝宏委員長

時間がまいりましたので、この程度にとどめさせたいと思います。松見さん、本日はありがとうございました。しばらく休憩します。

休憩 午前11時35分

再開 午前11時40分

○久世孝宏委員長

委員会を再開します。議題2の意見集約に入りたいと思います。今日のことを踏まえまして、委員会報告に追加をしたい内容、ご意見等ありましたらお願いします。

○山本半治委員

提案として入れるならば、新美保博委員のご意見が一番的を得た内容かと思いました。

○久世孝宏委員長

ほかにありませんか。

○山本博信委員

教育施設を観光施設として考えていくということを行政の方をお願いしたい。

○久世孝宏委員長

根本を観光中心にものごとを捉えて考えて範囲を広げて入れたいと思います。観光として休館日が適切なのか、観光としてどうなのかということをもまず行政から示していかないといけないのかなと思っておりますので、そういった内容を入れていきたいと思います。

今後の予定を言いますが、今日出た意見と前回いただいた意見を踏まえて修正したものを来週火曜日を目途に配信いたします。内容を読んでいただいて、16日月曜日午後3時から次回委員会が予定されておりますので、内容に関しては、ここを入れてほしい、ここを消すということはそこで全部出していただき、入れるかどうかを極力その場で決めたいと思います。以後は委員会を開催せずに、配信した内容を皆様に確認していただきます。もし変更が大きなものではなければ、正副委員長で修正をかけていく。もちろん皆様の承認をいただけるもので完成としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

それを踏まえましてご意見等があればお願いします。

○新美保博委員

半田市の観光を重視して施策を打つということであれば、半田市としてやれること。行政サイドは観光であれをしてくれとかではなくて、全体の観光をみると半田市はこれだけしかできない、あとは行政が携わるところはここまでなんだ、あとは皆さんでやってくれという位置づけをちゃんとしないからという話はずっと前から話があったことなんです。行政サイドのスタンスがちゃんとしていないわけです。観光で売り出して行くんだということで、もっとやらなければいけなかった部分もあるわけでしょうし。行政としてなにができるんだと。協働とは思わないけれども、民間がやれるところは民間でやる。民間でやれるところはお任せして、行政はバックアップに徹するスタンスをはっきりした方がいい。自由に大きく飛び出したい人は消えてしまうので。もしどこかで入れられたら入れてほしい。

○久世孝宏委員長

ほかにありませんか。

○中川健一委員

私たち自身が誇りある生活をしていれば、見に来るだろうし、それでいいと思う。観光協会は観光で金儲けする団体という位置づけだと思っているので、観光協会を中心として観光

でも儲かるような仕組みを作っていただければいい。何が大切かという観光協会のでやれる範囲というのは超えて、やれることは一生懸命やっていると思うのです。松見さんが言ったように中埜半六邸をどうするのか、赤レンガをどうするのかというところが、実は半田市のまちづくりの課題である。高山や京都等通りがひとつあると観光客が集まるというのが、一番のポイントだと思っております。半田市としても、小栗邸の前や酒の文化館から酢の里への道にどれだけの金額を投資をして街並みの整備を行うのかということ、きちっと考えるべきではないかと。整備することを、市としてまちづくり、ひいては観光にプラスになるという観点できちっとやるべきじゃないか。くしくも観光協会事務局長からそういうご意見もありましたので、大賛成でそういう方向で進めていただきたいと思います。

○久世孝宏委員長

ほかにありませんか。ないようでしたら、もしこういうことがということが明日くらいで思いついたことがあれば、提言の部分であれば加えていくことは可能ですので、正副委員長にご意見いただけたらと思います。先ほども申しましたけれども、正副委員長で委員会報告を修正して、4月10日までに皆様に配布させていただくとともに、次回は4月16日午後3時から委員会を開催して最終調整を行いたいと思いますのでよろしくお願いします。

ほかになにかありませんか。

(なし)

ないようですので、これにて建設産業委員会を閉会します。

午前11時50分 閉会